

26年11月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 10月20日～ 26年11月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は17社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/11月	26/12月	27/1月
入荷動向	スギ	15.0	25.0	10.0
	ヒノキ	16.7	22.2	△ 5.6
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	50.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
消費動向	スギ	0.0	10.0	10.0
	ヒノキ	0.0	5.6	△ 5.6
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 75.0	△ 75.0
在庫動向	スギ	20.0	10.0	0.0
	ヒノキ	16.7	16.7	△ 11.1
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	50.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0

・スギの原木入荷は3ヵ月連続して増加、ヒノキは11月、12月の増加の後、27年1月は減少へ、カラマツは11月、12月の減少の後、27年1月は増加に、トドマツは3ヵ月連続の減少。

・スギの原木消費は11月の横ばいから12月、27年1月は増加へ、ヒノキは11月の横ばい、12月の増加から27年1月は減少へ、カラマツは3ヵ月連続の横ばい、トドマツは3ヵ月連続の減少。

・スギ原木の在庫は11月、12月の増加が27年1月は横ばいに、ヒノキは11月、12月の増加が27年1月は減少に、カラマツは11月、12月の減少の後、27年1月は増加に。トドマツは11月の増加が、12月、27年1月は横ばいに。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	26/11月	26/12月	27/1月
スギ	5.6	16.7	△ 5.6
ヒノキ	△ 22.2	△ 11.1	△ 11.1
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギの原木価格は11月、12月のやや強保合が27年1月にはやや弱保合に、ヒノキは3ヵ月連続してやや弱保合ないし保合、カラマツ及びトドマツは3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・カラマツは生産量に対し入荷量は減少、農繁期による輸送体制の遅れが主な要因。トドマツは使用量が少ないので入荷制限。消費は、カラマツ梱包・パレット向けは当月も堅調な需要、トドマツは羽柄材関連の出荷が低調のまま。カラマツは径18-24cm及び13-14cm材が平均的に少なく、原木の大径化が進んでいる。トドマツは下期が出材期になるが、北海道内では製品需要期から外れるので年度末までに過剰在庫にならないか心配。

・トドマツ原木入荷は順調、合板不調のため製材工場への入荷増える。受注堅調、3,000m³/月消費、冬期に入るため凍結、休日増で消費は減少。土場満杯の状況続く。

・ヒノキ在庫が多いので、仕入れは抑え気味、10月の荷動きは予想以上に良好。仕入れセーブ。

・スギ、ヒノキは、燃料用原木等の下支えもあり、安値の材は少ないが、毎月の仕入平均単価もジリジリ下がり、数量確保も行いやすい環境になってきた。製材数量は変えないが、稼働日数並の生産、当月はヒノキ製材を通常月よりも増やすため在庫バランスが崩れるが、生産量に合わせての仕入れなので翌月中に調整。

・販売状況に合わせて原木入荷をコントロール。販売に合わせて消費、在庫は天候と出材量を見てコントロール。

・丸太出材は例年通り、多くも少なくもない、製品単価に押されて下落しているが、

・10月予想以上に入荷したため11月は入荷抑制、販売が思わしくないため生産を落としており、在庫はかなり増えた。

・スギ丸太の入荷少ないがヒノキ丸太多い、全体としては入荷増の傾向。製品が売れないのにヒノキ丸太があるのでやむを得ず製材しているという状況、全体的にヒノキ丸太の在庫が多い。

・10月に続き原木の出荷は順調、製品需要の減退で少し減産している。在庫は仕入れを抑えてやや減少。

・天候良く、出材順調。

(原木価格)

- ・トドマツの国有林公売価格は高値安定。
- ・スギは全国的に異常高続く。赤字経営を余儀なくされる状態が続くのでは。原木高が生産増に結びつかない。
- ・ヒノキ良材はしっかり、並材は弱い。
- ・スギヒノキの底値は決まっており、大きな動きはないが、一時よりも下がって来ている印象。
- ・天候にもよるが12月～2月は少し値上がりと予想。
- ・ヒノキは昨年の最高値から半分まで下落、駆け込み前より、下がった。
- ・ヒノキは建築需要が盛り上がらないと値段は限りなくスギに近づくのではないかと。
- ・買い意欲なし。
- ・消費税の駆け込み需要も現段階では予測が難しい。

26年11月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/11月	26/12月	27/1月
生産動向	スギ	0.0	0.0	5.0
	ヒノキ	△ 5.6	0.0	△ 5.6
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
出荷動向	スギ	5.0	0.0	△ 5.0
	ヒノキ	△ 5.6	△ 5.6	△ 11.1
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
在庫動向	スギ	10.0	20.0	20.0
	ヒノキ	22.2	11.1	16.7
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0

・スギ製材品の生産は11月、12月の横ばいの後、27年1月は増加に、ヒノキは11月の減少、12月の横ばいを経て27年1月は減少に、カラマツは3ヵ月連続して横ばい、トドマツは3ヵ月連続して減少。

・スギの出荷は11月の増加、12月の横ばいを経て27年1月は減少に、ヒノキ及びトドマツは3ヵ月連続して減少、カラマツは3ヵ月連続して横ばい。

・スギ及びヒノキの在庫は3ヵ月連続して増加、カラマツは3ヵ月連続して横ばい、トドマツは3ヵ月連続して減少。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/11月	26/12月	27/1月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 15.0	△ 10.0	△ 10.0
	柱角 KD12×3	△ 20.0	△ 20.0	△ 20.0
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	△ 5.6	△ 5.6	△ 5.6
	母屋角	△ 12.5	△ 6.3	△ 6.3
	タルキ	△ 12.5	△ 12.5	△ 6.3
	間柱	△ 11.1	△ 16.7	△ 11.1
	ヌキ	△ 6.3	△ 6.3	△ 6.3
	平割	△ 12.5	△ 12.5	△ 6.3
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 22.2	△ 11.1	△ 11.1
	柱角 KD12×3	△ 27.8	△ 16.7	△ 16.7
	土台角 10.5×4	△ 16.7	△ 5.6	△ 11.1
	土台角 12×4	△ 37.5	△ 18.8	△ 18.8
	通し柱 12×6	0.0	△ 12.5	△ 25.0
	ラミナ	△ 10.0	△ 25.0	△ 25.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	△ 50.0	△ 100.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ通し柱及びラミナは3ヵ月連続して横ばいで推移、それ以外のスギ製材品は総じて弱保合で推移。

・ヒノキ製材品は、通し柱が11月に横ばいであるが、それ以外は全てやや弱保合ないし弱保合で推移。

・カラマツ梱包仕組み板及びトドマツサンギは3ヵ月連続して横ばい、カラマツラミナは11月、12月の弱含みが27年1月には横ばいに。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・トドマツ受注堅調、サンギ首都圏堅調。急激な円安により動向注視。国産へ注文殺到。生産、即出荷続く。
- ・ヒノキの荷動きは予想以上に良好。
- ・ヒノキ注文材あり通常月よりも生産増、在庫水準は大きく変わらないよう調整。
- ・ヒノキの製材品生産は、販売を見ながらコントロール、控えめに生産する。9月-12月の販売量は余り変化なし、在庫が有るので徐々に減らす。
- ・スギ、ヒノキ共に荷動き悪い。来年までこのままの状況下?
- ・半製品の置き場がないため生産調整、出荷はスギがヒノキよりましである。調整してもなお売れ行き不振のため在庫が増えた。
- ・工場を止めるとコスト増のため生産は落とせない。スギ柱、ヒノキ土台が売りづらく、特に12cm角が売れない。製品在庫が多く、この時期としては異常な状態。
- ・製品需要の減退で、生産減、出荷減、
- ・秋需わずか、期待薄。

(製材品出荷価格動向)

- ・カラマツラミナ価格が、m3当たり8月から500円、10月から1,500~2,000円下がりました。
- ・トドマツサンギは輸入材高値続き、国産も値下げ要素なし。
- ・ヒノキは、値下げしても売れる量は必要分だけ。
- ・スギは、円安の影響もあり輸入材の値下げがなければ横ばいで推移。荷動き次第で値下げアイテムが出る可能性を憂慮。ヒノキ土台関係で一部安値を聞くも概ね横ばい。
- ・ヒノキ角材は販売に合わせ生産を行い、販売価格を下げない動きをとる。
- ・スギ柱類は売れ行き低調につき下落、その他は需要が比較的堅調。ヒノキは柱、土台の荷動きはさっぱり、投げ売りの様な相場が見られる。通し柱などは生産量が少ないため比較的安定。
- ・スギ製品、柱12cm角の価格は下落が続きそう。10.5cm角はじわりじわり下げている。これまで強かったヒノキ10.5cm角も勢いが落ちてきた模様。ヒノキ4m120角は売れない！

26年11月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/11月	26/12月	27/1月
仕入動向	米マツ丸太	0.0	0.0	△ 50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 50.0	0.0	△ 50.0
	NZラジアータ	50.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	50.0	0.0	△ 50.0
	NZラジアータ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入れは11月、12月の横ばいから27年1月は減少に。NZラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ丸太の消費は11月の減少から12月の横ばいを経て、27年1月には減少へNZラジアータ丸太は12月の増加が、12月27年1月は横ばいに。

・米マツ丸太の在庫は11月の増加、12月の横ばいを経て、27年1月には減少に、NZラジアータ丸太11月の横ばいが12月、27年1月には減少に。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/11月	26/12月	27/1月
米マツ丸太	100.0	100.0	0.0
NZラジアータ丸太	0.0	50.0	100.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の購入価格は11月、12月の強含みが27年1月は横ばいに。NZラジアータ丸太は11月の横ばいが、12月、27年1月はやや強含みないし強含みに。

モニターからのコメント

(原木荷動)

・NZラジアータ原木は11月に入り、受注量が増加。残業中にて消費増加。

(原木価格動向)

・NZラジアータ原木は為替円安により急上昇。

26年11月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/11月	26/12月	27/1月
生産動向	米マツ製材品	△ 50.0	0.0	△ 50.0
	NZラジアータ製材品	50.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	△ 50.0	0.0	△ 100.0
	NZラジアータ製材品	50.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	50.0	0.0	50.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産は11月の減少が12月の横ばいを経て27年1月は再び減少、NZラジアータ製材品は11月の増加が12月、27年1月は横ばいに。

・米マツ製材品の出荷は11月の減少が12月の横ばいを経て27年1月は再び減少に、NZラジアータ製材品は3ヵ月連続して増加に。

・米マツ製材品の在庫は11月の増加、12月の横ばいを経て27年1月は増加、NZラジアータ製材品は11月、12月の横ばいから27年1月は減少に。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/11月	26/12月	27/1月
米マツ平角		△ 50.0	0.0	0.0
米マツ正角		△ 50.0	0.0	0.0
米マツ小割		0.0	50.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		0.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)		0.0	0.0	0.0
NZ土木用材		0.0	0.0	0.0
その他		—	—	—

・米マツ平角及び正角の出荷価格は11月の弱含みが12月、27年1月は横ばい、米マツ小割は11月の横ばいが12月の強含みを経て、27年1月は横ばいに。

・NZラジアータ梱包材、土木用材は3ヵ月連続して横ばいで推移。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

・NZラジアータ製材品の生産、出荷は受注増加、消費増加により増。

(製材品出荷価格動向)

・NZラジアータ製材品は、まだ値上げ状況にない。